

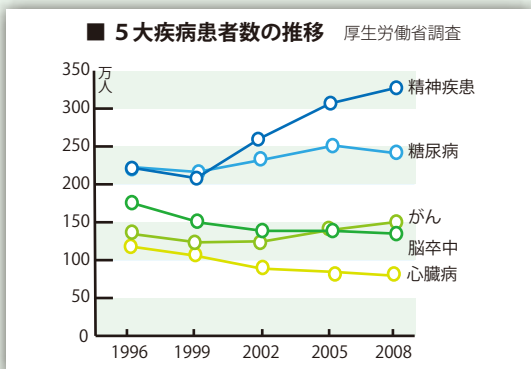
精神科
特集②

最近の精神科医療について

副院長 山内祥豪
やまうち しょうごう



皆さん、精神病と聞いてどんなイメージを浮かべるでしょうか。原因不明の不治の病：得体の知れない怖い病気のイメージではありませんか？平成23年、厚生労働省は、地域の医療計画に盛り込むべき病気として、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病のこれまでの4大疾病に、新たに精神疾患を加えて「5大疾病」とする方針を決めました。今や精神病は身近な病気で、地域をあげて取り組むべきとされています。



精神病は適切な時期に正しい治療をすれば、多くは治ります。精神病の治り方は糖尿病や高血圧と良く似ています。治療は**お薬が主体**です。生活習慣や環境を変えることでお薬が不要となる人もいます。どうしてもお薬の効きの良くない方が一定の割合でおられますし、治療が遅れると後遺症が残ることでしょう。生活にあまり差し障りがない程度まで治っても、お薬をやめると再発しやすいところもよく似ています。

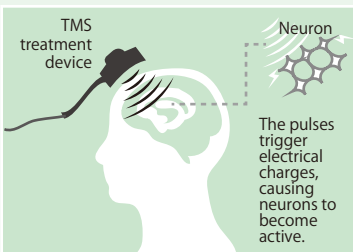
ひと昔前の精神科のお薬は、とてもつらい副作用を持つものが多く、常用するのに覚悟がいりました。でも近頃のお薬は副作用も少なく、薬に続けやすくなっています。またお薬の種類によっては、日々の飲み忘れの心配のない持続性の注射薬を使うことも選べます。近年では精神科領域においても**治療ガイドライン**が作られて広めつつあり、医師個人の技量や経験などに頼らずに、誰もが安全かつ効果が最も期待できる初期治療が受けられるようになってきています。

■ 精神科の治療ガイドライン(例)



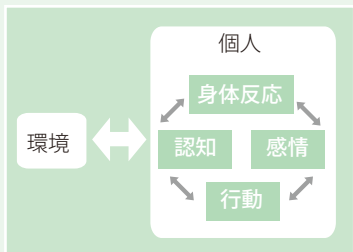
！ 下記に述べられている治療法(磁気刺激療法・認知行動療法等)は現在、当院では実施していません。ご注意ください。

■ 磁気刺激療法



○磁気刺激療法とは、電磁石に流れている電流により磁場を発生させ、磁場を受けている脳に二次電流を発生させて刺激することで、うつ病などの精神疾患の症状改善が期待されている治療法。

■ 認知行動療法の認知行動モデル



○認知行動療法とは、学習理論をはじめとする行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて、不適応な反応を軽減するとともに、適応的な反応を学習させていく治療法。

お薬以外では、**認知行動療法**、**磁気刺激療法**などが効果を上げていて、普及が待たれているところですが、...とは言ってもまず病気にからない事が肝心です。この先、患者背景の研究がもっと進むと、精神疾患にかかりやすい人を予測できるようになることでしょう。今後、精神科医療は予防医学という面からのアプローチが、より重要視されていくと考えられます。